

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 044(63)5101
FAX.044(63)9907

No. 55/56合併号
90.6.20
定価 100円

月刊反トマホーク通信改題



「平和の歌」(NITTAYA SUKCHAREON作) - 「平和と発展」(タイ)1989年12月号より

ミッドウェー爆発

もう空母なんかたくさん／インディペンデンスの母港を止めよう！

自衛隊はどこへ行く？(藤井治男)

トマホークは軍縮の「カヤの外」(梅林宏道)

(再生紙使用)

[発行] トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員(月間会費)

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員(月間会費)

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

あなたも仲間！(会費は本誌購読料を含みます)



21日には、ミッドウェー入港に抗議して平和船団も海に出た。

20日夜おそく、基地正門にかけつけ抗議行動。21日朝には50人にふくらんだ。東京からも多くの人がかけつけた。

アメリカ大使館にも「日本はこれでいいのか市民連合」が抗議行動(21日)。

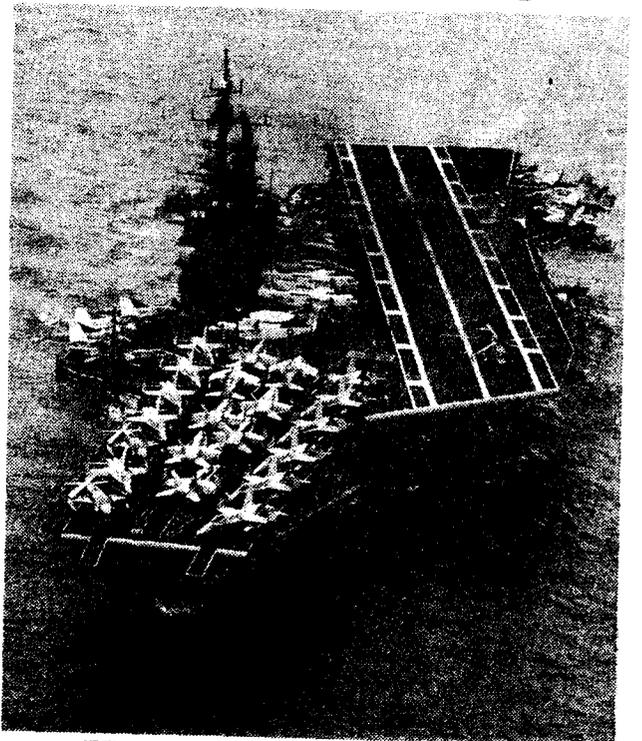


三十年間、日本政府は「事前協議申し入れが無い以上核の持ち込みはない」と国民をだましつけてきた。この大ウソが空母という怪物と結び付いて、私たちをこんなに危険な状況に追い込んでいるのだ。
事故の真相は徹底的に究明され、公開されなければならぬ。しかし、根本的には空母の母港そのものを無くすこと以外に私たちの安全を保障する道はない。米軍は今度の事故でインディペンデンスとの交代時期が早まるかもしれない、言っている。
とんでもない。ミッドウェーだろうが、インディペンデンスだろうが、空母なんかもういらぬのだ。(た)

●蒸し暑い毎日が続いていますが、お元気でございましょうか。前号(四月)から六月まで、二月も間があいてしまったことをお詫びします。実をいうと、五月の編集追込みの一週間、健康と体力だけでは自信があった編集長(ぼくのことですが)が、何と病気で寝込むというハプニングに見舞われてしまったのです。そこで、ええいと「合併号」ということになった次第です。
●今号も、発行日間近になって大事件が次々と起き、大慌ての編集でした。安保条約三十年、マスコミの論調には、安保の「変質」というトーンが目立ちます。世界情勢の変化を受けて、軍事同盟から政治同盟へとシフトしつつある、と。しかし、市民の立場から核や基地を見つめてきた目から見れば、安保は変わらず軍事同盟であり、核や基地や兵器こそがその最大の「争点」です。今号と次号で掲載する藤井治男さんの講演録は、この三十年間に自衛隊という名の日本軍がどのような「変質」をとげ、どこまで大きくなってしまったのかを浮き彫りにしています。
●今月から、読者カード(ハガキ)を同封します。お手紙お待ちしています。(た)

編集室から

これが核事故だったら… もう空母なんかたくさん ミッドウェーは 出ていけ! インディペンデンスは来るな!



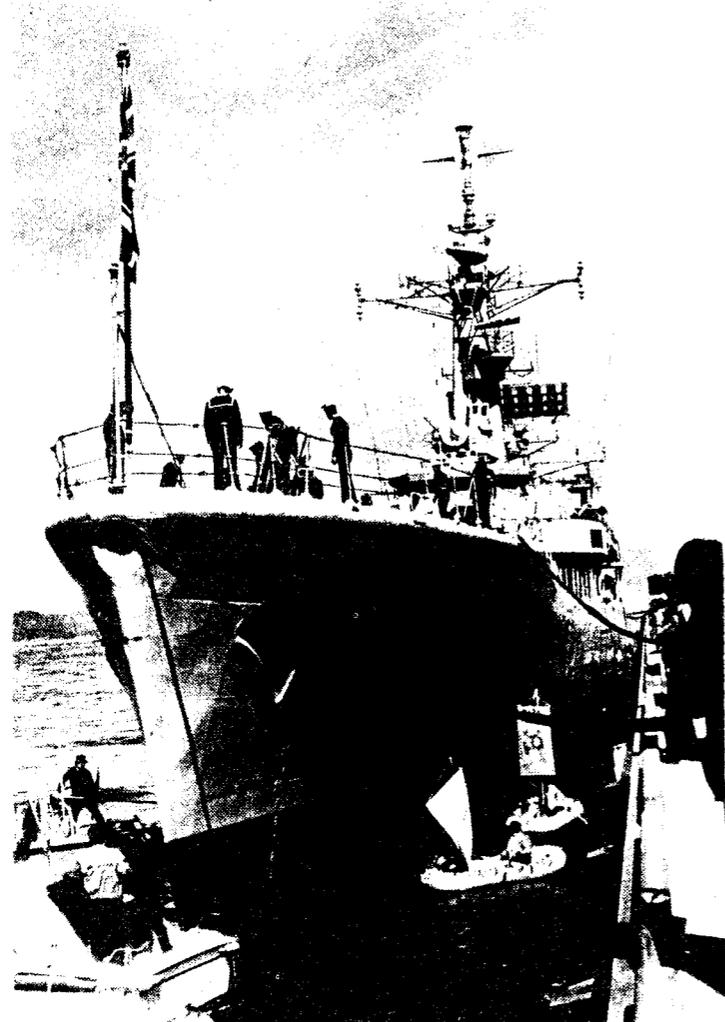
爆発・火災を起こし、横須賀港に向かう空母ミッドウェー=20日午後6時30分、千葉県・野島崎の東60°。で朝日新聞社機「千早」から、大北写真部撮影

一瞬、背筋を寒気が走った。次にそれは、怒りに変わっていった…。
六月二十日午後0時二十三分、房総半島沖を行動中の空母ミッドウェーで起こった爆発事故は、二人の兵士の命を奪い、その火は十二時間以上も燃えつづけた。
もし、核兵器の弾薬庫が炎に包まれていたら、一体どんな惨事になっていただろう。想像するのも恐ろしいことだ。
空母は戦争という人殺しの機械だ。しかも、

それが戦争でなくても多くの人の命を奪う可能性を秘めた危険の固まりであることを、この事件は立証した。そして軍事機密のベールに守られた正体不明の怪物であることも。
米海軍は、事故の原因も状況も明らかにしないまま「もう安全」を繰り返す。政府は「安全をきちっと」(海部首相)などと、訳のわからないことをいって、白紙委任。地元横須賀市長は当初の「安全が確認されるまで入港見合わせ」との態度をひるがえし、米軍の「安全宣言」で「安全が確認された」と

二十一日の入港を認めた。実際には何もわかっていないに等しいのに。いったいどこに市民の安全への配慮があるのだろうか。

●六月十五日には、ミッドウェーの核疑惑をさらに深める事実が明らかになったばかりだった。一九六〇年の安保条約改訂を前にして、マッカーサー駐日大使は次のような電報を本国に送っていた。「第一回交渉で日本政府に以下のことを通告した。日常的な艦艇の入港は事前協議に影響されない…」(NHK)。



英フリゲート艦アリアドーニに挑む広島・呉
岩国平和船団のゴムボート

海の軍備撤廃を！ 国際行動

4.22



潜水艦基地前の公園にいた時には雨もやや小降りになり、平和船団を出そう、ということになる。すぐにボートの準備と風船につけるメッセージ書き。メッセージは共通の文章のウラに一人一人思いの言葉を書いて風船に付けた。ところが、風船に付いた雨の重みでうまく飛ばない。誰かが「風船をはたいてやると良く飛ばよ」というのでそうしてみるとうまくいく。結局予定の半分くらいの三十個が空に上り、呉の市街のほうへ飛んでいった。

平和船団は過去最高の六隻。昨年の太平洋演習(PACEX)抗議行動の時のように、近くにいた潜水艦救難艦にタッチしてくるボートもある。海上保安庁の巡視艇がよってき「あまり自衛艦に近寄らないでください」「すかさず、陸から応酬。「その巡視艇、じ

クレ
四月二十二日の日曜日、約六〇人が集合地点の市民広場に集まった時にはどうなるかとやらと皆心配顔。私だけは、昨年八月末に横須賀で台風の中に出たことを思いだし、まあ何とかなるんじゃないかと思っていた。

核のない海をめざして—

ベガ号
ジャパン
ツアー



VEGA

グリーンピースの帆船「ベガ号」が、七月から八月にかけて来日し、横須賀、大阪、神戸、呉、広島、佐世保、長崎の各地を訪問、海の非核化を訴える。七月七日・八日の横須賀をかきりに、各地で平和船団とのジョイントセーリング、集会などのイベントが予定されている。ベガ号はモルロワ環礁の核実験への抗議をはじめ、数多くのキャンペーンに従事してきた。日程は折り込みのチラシをご覧下さい。連絡はグリーンピース・ジャパン(〇三―五六八四―〇五五九)またはトマ喰い虫社へ。

市民の声

6.21「朝日新聞」神奈川版より

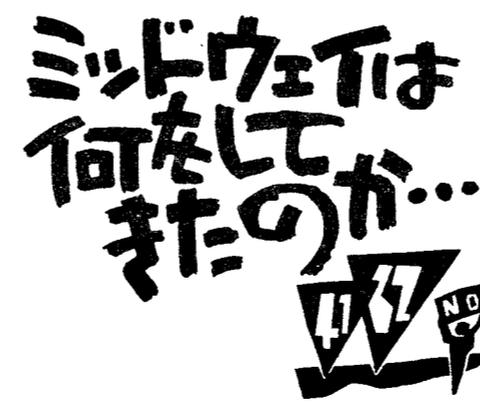
基地の街の こわさ実感

米海軍横須賀基地近くに住む主婦古坂田陽子さん(33) 事故はテレビのニュースで聞いた。四歳と二歳の子供がいるので、積んでいないといわれているが、核ミサイルなどの兵器が爆発したら、と思うと不安だ。単身赴任中の夫も心配して電話をしてきた。

るという疑念がつきまとう。事故の影響で核燃料が漏れた可能性もあるのではないかと。そんな船が横須賀に帰ってくるのは怖い。

同基地正門ゲート前で英会話講習にきた横須賀市馬場、会社員村田陽子さん(33) ゲート前には、ヨコスカギヤルが二、三十人いることが多いのに、今日はほとんどいないのでおかしいと思っていた。ミッドウェーで火災事故があったなんて、びっくりです。

インディペンデンス母港化反対パンフ



墜落/NLP/民主化への威圧/海洋戦略/空母戦闘団/核疑惑/市の財政は/住宅問題/アスベスト公害...などなど、17年間のミッドウェーの母港への市民の側からの決算書。発行●非核市民宣言運動ヨコスカ

横須賀市本町3-14 山本ビル2F
☎0468(25)0157
定価●200円 今、読むならこの一冊...

「INFは良かったがSTARTは良くなかった」と言うのが、今回のワシントン・サミットに対する私の率直な印象であった。ゴルバチヨフ大統領は、ともかく合意を急ぐことが必要な国内事情を抱えており、アメリカはペレストロイカを転げさせないためにそれに協力した。しかも、火事場泥棒のような利得をくすねながら。

●トマホークの数と検証

もちろん、戦略核削減が少なるとも合意されたこと、テラントの方向を不動にしたことの意味は大きい。しかし、より大胆な軍縮が可能であったこの機会を逃したとの印象を拭き切れない。

中でも、海洋発射巡航ミサイル(SLBM)の削減がどのように合意されるかが、今回の軍縮交渉の一つの焦点であった。海洋軍縮に向かう流れを作る意味があったからである。しかし、期待は裏切られた。いや、それどころか、大変な軍拡の合意が作られてしまった。SLCM削減は、もともとこの分野で圧倒的に遅れを取っているソ連から提案された。アメリカは、一九八二年から一九九二年までに七五八発の核弾頭付きSLCM・トマホークを購入する計画を持っていた。良く知られているように、トマホークには非核弾頭のものがあり両者の区別が難しい。非核トマホークも含めると、アメリカは、一九九二年までに三九九四発、つまり約四千発のトマホークを購入しようとしている。

軍縮会談で軍拡を合意

ゴルバチヨフの失点

◆梅林宏道

したがって、SLCM削減交渉のテーマはこの七五八発計画自身の削減と、核・非核の検証問題であった。とりわけ、技術的に新しい問題を含んでいる検証問題にマスコミの関心が集中した。実際、サミットの合意の中心が公表されて以後も、検証問題が尻抜けになっていることが批判の対象となった。しかし、トマホーク配備の進捗状況を追ってきた私たちの目から見れば、問題ははるか手前の所にある。

●八八〇発の意味

核SLCMの上限が、八八〇発と合意されてしまったのである。この数は、許しがたい反動を意味している。

もしも、七五八発が第一次計画であり次の計画が日程に上っている時であれば、それに歯止めをかける上限設定も意味があるかも知れない。しかし、状況は全く違っていた。アメリカの議会に出てくるかぎり、核トマホークの計画は七五八発であることが繰り返して述べられてきた。エクスカリバーという次期SLCMの名前が開発中のものでして国防省から報告されたことはあったが、多くの人たちは、それらは高精度の通常兵器であろうと了解していた。

「やまするなら平和船団でなくリムパックをじやましてろ」。

前に横須賀で教わった「大声コンテスト」は大好評で、皆でんでんことを叫んで大騒ぎ。誰かが持ってきたクッキーをみんなで食べているうちに四時過ぎとなり、全員で自衛艦にむかってシュプレヒコールをして解散した。リムパックへ行くな！

イギリス核艦船の呉入港反対！
弾薬の海上保管を許さないぞ！
タイコンデロガ事故の幕引を許すな！

三日後の二十五日にはイギリス海軍の核搭載可能なフリゲート艦「アリアドニー」が呉に入港、平和船団の三隻のゴムボートがこれに挑戦した。「NO NUKES」ののぼりを立てたゴムボートはまんまと岸壁と「アリアドニー」の隙間に入り込むことに成功！ 大いにアビールすることができた。われらが平和船団、前途洋々。七月七日にはそろって横須賀に行く。(湯浅一郎 トマホークの配備を許すな！ 呉 市民の会)

*英艦アリアドニーなど三隻は五月五日には横須賀に入港、そこでも平和船団のチャレンジャーを受けた(編集集部：反核ホットラインだよりに記事)

ヨコスカ

横須賀も午前中から雨が降り出した。そんな天気具合もあって、参加者は一五〇人とちょっとさびしい。大きく動く世界、だからここはじっくり話し合える場をと計画された屋内でのフォーラムは内容たつぷり。(藤井治男さんの自衛隊の現状についての講演は本紙に掲載)。

横田、返子など各地からの発言、海外からのアビールの紹介、NEPAの会、グリーンピースなど各団体からの発言のあと討論を行ったが、これはちょっと消化不良きみ。

最後にインディペンデンスの母港化に反対するアビールを採択し、デモに出発した。

呉のように途中で小降りになるという幸運にも恵まれず。市内デモに出発する頃に勢いをました雨は、どうだまいったかと降り注ぎ続けた。去年八月に続いてまたもやのこの空に、当然、「だれが悪いのか」という話になったが、容疑者が多すぎて結論は出ず。

なお、集会と平行して、横須賀港では、十人乗りクルーザーも初めて加わった平和船団の行動も行われた。

(田巻一彦 トマ喰い虫編集部)

今年の「海の軍備撤廃国際行動週間(四月二十一日〜二十八日)」は次の十二ヶ国で合計四十四の行動が繰り広げられた(四月二十日まで知らせのあったもの)。

オーストラリア、ベルギー、カナダ、イギリス、日本、ニュージーランド、ノルウェー、スコットランド、スエーデン、米国、アイスランド、アイルランド。

米太平洋海軍の拠点であるサンディエゴでは、原子力空母の母港反対の請願運動を開始。四月二十一日には、アースデイ行事の「きれいな海の船団」で海の軍備撤廃をアビール。サンフランシスコでは、「湾地域ピース・ネイビー」「非核湾連合」「グリーンピース」が共催してアース・デイ・ボート・パレードを行った。その他も、展示会あり、議会への要請行動あり、街頭パフォーマンスありと色々あり。海の向うで、同じ事を考えて、体を動かしている人たちがこんなにいる。それをもっと思ふとなんだかうれしくなる。(た)

世界十二の国で

さらに、トマホークの計画自身が遅れに遅れており、七五八達成は不可能の状態に陥っていた。PCDS（太平洋軍備撤廃運動）研究者ネットワークの調査によれば、一九九〇会計年度まで（今年九月まで）に購入できる数は、三六七発に過ぎず、目標の半数にも充たなかった。あと二年で半分以上を調達することは、生産能力的にも予算的にも不可能であった。

一般的には、大幅な予算削減と軍縮傾向の中で核トマホークの目標数は下方修正されるだろうと予測されていた。事実、議会での報告の中でも、核トマホークよりも通常トマホークの威力と有用性を強調する傾向が生まれていた。

このような流れであったから、七五八発を削減する余地は十分にあったと思われる。そこを、八八〇発で合意したのであるから、これは、アメリカに第二次SLCM計画の枠を提供したに等しい。アメリカの議会に全く話の出ない核軍拡の枠をアメリカ海軍は獲得した。軍部は議会対策上きわめて有利な状況を手に入れたわけで、ゴルバチョフの大失策と言わなければならない。ちなみに八八〇と言ふ数は、ソ連の現行七五八発を上限とせよと言ふ主張とアメリカの千発と言ふ主張をたしめて二で割ったものである。

●核エクスカリバー？

またもや、海洋核が軍縮のシワ寄せ場として使われたわけである。

今回のサミットの結果、アメリカ海軍の中に第二次SLCM計画があると見なければならぬことが明らかになった。「ネイビー・タイムズ」（三月二六日）は、核トマホークの誘導方式を改良し、これまで陸上施設でセツトされた飛行経路でしか目標を攻撃出来なかつた方式から、発射直前に目標と最終飛行経路を軍艦上でセツトできる方式に変えるテストに成功したと報じた。

トマホークよりさらに強力な核エクスカリバーが登場するのだろうか。



を虫にしよう
喰いしまし
いしょ
マッぱり
トマ喰い虫を
いっしょに
作りましよう

スタッフ、助っ人大募集！



●編集から、版下作り、印刷まで「トマ喰い虫」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味がある人、平和運動の新しい話題にふれてみたい人、イラストやデザインをいっしょやってみようか、と思ってる人。ワープロ打ちならまかせなさい、あるいは覚えてみようかな、なんて考えているひと。新しい友との出会いを願っているあなた！ いっしょにやってみませんか。

●月に一度の発送も大事な仕事です。一度のぞきにきてください。ちょっとの時間でも手を貸してもらえたらうれしいです。毎月20日直後の日曜日、日吉のトマ喰い虫社分室です。（東横線日吉駅下車歩いて7分/☎044(63)5101）

次回は

7月22日 午後2時からです。

反核ホット ライン だより

25

*前号に於いて、こちらの手違いで「反核ホットラインだより」を落としてしまい、申し訳ありませんでした。今号より再開いたします。

(4・11)	トートツグ(S級)	午後2時	＊1990年5月15日現在 の各港への原子力艦 の入港回数は、
(4・16)	横須賀に入港	正午	横須賀
(4・23)	賀に入港	午前10時	7回(うち原潜7回)
(4・26)	横須賀を出港	午前10時	1回(うち原潜0回)
(5・2)	ガードフィッシュ(P級)	正	6回(うち原潜6回)
(5・14)	ガードフィッシュ(P級)	午	14回(うち原潜13回)
	前10時 横須賀を出港		

核疑惑乗せ英艦入港

横須賀に3隻 海上抗議行動も

英国海軍の駆逐艦フリゲート艦「ミナーバ」(P級)、「アリアドニ」(S級)、「ジェーン」(P級)の3隻が五日午前九時半すぎ、在日米海軍横須賀基地に入港した。

三隻は英海軍の練習艦隊で、同基地に六日午後まで留まる予定。ミナーバには、核搭載可能なヘリコプターが搭載され、アリアドニは同型のヘリコプターが搭載可能とされている。

核持ち込みは考えられないとして英政府への確認は行っていない。

核搭載可能艦の入港に対し、地元反核・反基地グループ「市民宣言運動・ヨコスカのメンバー」数人は午前八時から横須賀市入町の臨海公園からモーターボートなど三隻に分乗して抗議行動を行い「核を指し示さないこと」が証明できない以上、入港には反対だと海上から訴えた。

神奈川新聞5月6日版

英国海軍のフリゲート艦「ミナーバ」、アリアドニは、ジェーン年鑑によると核搭載艦となっており、核疑惑艦である。日本には、呉→佐世保→横須賀という形で入港してきた(呉・佐世保は、フリゲート艦のみ)。米軍以外の核疑惑艦は、昨年のフランスの駆逐艦デュプレ以来である。米軍以外の核艦船の入港にも抗議の声を!!

入港情報

- 90・3・21〜5・15
- P級 (原子力潜水艦「パーミット級」)
- S級 (原子力潜水艦「スタージョン級」)
- L級 (原子力潜水艦「ロサンゼルス級」)
- (4・1) パファー(S級) 午前10時
- 横須賀を出港
- (4・3) フラッシュャー(P級) 午後0時47分
- 横須賀港内沖に停泊、10分後に出港

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗誦番号 **1071**

クローバ イレナイ

反核ホット ライン

26

だより

入港情報

- 90・5・16 6・15
- P級II (原子力潜水艦パーミット級)
- S級II (原子力潜水艦スタージョン級)
- L級II (原子力潜水艦ロサンゼルス級)
- (5・17) ガードフィッシュ(P級) 午前10時
- (5・18) ガードフィッシュ(P級) 午前10時
- (5・23) ガードフィッシュ(P級) 8時
- (5・25) ガードフィッシュ(P級) 午前9時
- (5・27) ソルトレイクシティー(L級) 午前10時

- 午後4時に出港
- ガードフィッシュ(P級) 午前8時30分
- 同日午後2時出港
- *4月17日から27日の10日間に3回も出入港を繰り返している。
- オマハ(L級) 正午 横須賀に入港
- (5・28) パフロアー(L級) 午後1時50分
- 分 横須賀に入港
- オマハ(L級) 午前10時30分
- 横須賀を出港
- パファロー(L級) 午前10時
- 横須賀を出港

*1990年6月15日現在各港への原子力艦の入港回数:

- 横須賀 10回 (うち原潜10回)
- 佐世保 1回 (うち原潜0回)
- ホワイトビーチ 9回 (うち原潜9回)
- 計 20回 (うち原潜19回)

原潜

放射性排水を投棄!

日本にもよく来る原潜ギタロ(S級)が、グアム島において、低レベル放射性廃水を流した。このことは日本でも起こる可能性を示唆する出来事である。

現在日本では、原潜の入港前、入港中と出港後に放射能を測定している。しかし、それは停泊している又はする湾内の水を採用して測定しているだけで、航行中などは一切わからない。厚い軍事の壁によって、原子力関連の事故は、知りうることはまれである。

大きな事故につながる前に、一刻でも早く原潜の入港を止めよう!

放射性廃水をグアムで投棄

米原潜ギタロ A90.6.18
*毎週横須賀港へ入港するスタージョン級原子力潜水艦のギタロ(四一五〇)が、グアム島で昨年同様、低レベルの放射性排水を投棄し、艦内は多量の汚染物質を保持している。この汚染物質は、十五日の米軍人と軍艦の間の衝突で、艦内は多量の汚染物質を保持している。同艦は、投棄された放射性廃水を回収しようとした際、不注意で排水された。放射能の測定は、一六日午後に、艦内は「もし全部飲んだとしても、米原子力規制委員会が定める許容範囲」としている。

朝日新聞 6月18日

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗証番号 1071
クロハ イレナイ

米ソ新時代 自衛隊はどこへ行く?

藤井治男 ● 軍事評論家

なぜ、アジアと海では 軍縮がはじまらないのか

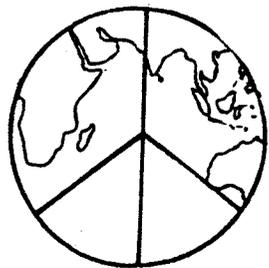
現在の米ソの冷戦の終結、国際的な平和と民主主義の大きな流れを、どう捉えるか。捉え方には、様々なものがあります。

一つは、ヨーロッパの動きは、いくらかの時差はあっても、必ず日本に及んでくるに違いないという、楽観的な見方があります。

ところが一方では、全くそうではない、ヨーロッパとアジアは全然違うというタカ派の人たちの主張があります。どこが違うかというところ、太平洋は広いけれども、ヨーロッパは狭い。ヨーロッパでは、ワルシャワ条約機構

とNATOが真っ向から対立していたのに対して、太平洋では、軍事ブロックが大きくなるとまわって、超大国の指導のもとに向き合っているという状況にない。これはアメリカの国防総省などが言っていることです。狭いところで対立していれば、平和への流れが起きてくる。そういう見方もありますが、これはとんでもない見方です。そうならば朝鮮半島や中東にまず平和の流れが起きてくるはずですが、そうはなっていない。対立から軍縮や民主化の傾向が起きてくるという

4月22日「太平洋に壁はいらない—海の軍備撤廃を! 国際行動inヨコスカ」での講演
(タイトル、見出しは編集部)



は、風が吹けば桶屋が儲かるという見方と同じです。確かにそういう見方はありますが、対立から起きてくるものはやはり軍拡競争であり、それがどんどん進行して、国民の負担が重くなり、国際緊張が激化して、さらに軍拡競争が拡大するという悪循環です。

そこで起きてくるのが、民衆の運動であり、その運動が主権在民の原則のもとで議会を動かす、政府を動かす、国連の軍縮総会のような形で、国際世論が結集していったら、そこで初めて軍拡がストップしてきたわけです。

対立がなければ、軍備がない。そういうところから軍縮への動きが強まってくるはずはありませんが、この状況の見方において、全くタカ派の人たちは間違った見方をしているわけです。

いや、彼らは、そういう見方をすることに よって、自分たちの目的を達しようとしてい るのではないかという見方もできます。つま り、アジア・太平洋では軍事ブロックが対立 していない。だから軍縮への動きがなかなか 進まなくて、アジアは特別なのだというので あれば、まずアジアで、これから軍事プロッ クを作り、それから軍縮に向かう。つまり軍 事ブロックを作ることが軍縮への道であるとい うことにもなっています。

中国があるからやりにくいという人もいま す。それなら、中国とソ連が、もう一回軍事 同盟を結んで、こちら側と仕切り直から始め て、取っ組み合いをしなければ軍縮にいかない のか。そのなにもないはずです。私たちが、 は、こういうことを主張している人たちが、 いったい何を狙っているのかを、事実を照ら して、しっかりと見極める必要があると思いま す。

アメリカが今アジアにおいて考えているこ とは何かというと、第一に、ソ連に対する優 位を維持するというところで、これは以前と全 然変わっていません。たとえば核軍縮におい ても、ソ連に対する優位を維持しながら、核 兵器を減らしているわけです。しかも、その 核軍縮は、ゼロにするわけではない。現在の 戦略兵器削減交渉でも、せいぜい三分の一ぐ

らいカットするだけです。半分減らすといっ ています。実際には三分の一です。

アメリカがソ連に対して優位を維持する上 で決定的なのは海軍力で、けっしてこの優位 を放棄するつもりはない。海軍の軍縮や軍備 管理にさえ反対であると、チェイニー国防長 官が来日した際、話しています。

この海軍力ともうひとつアメリカにとって 大事なものはアジアです。というのは、アジア がソ連にとって決定的な弱点だからです。で すから、アメリカはアジアにおける戦略態勢

過去四十年の軍事費を これから十年に注ぎ込む日本

そういうことで、アジアにおける冷戦構造 の解体はなかなか進まない、いや逆行してい るわけです。特に日本は、今後も軍縮ではな く軍拡を続けていこうとしています。その 状況は驚くべきものです。

日本が再軍備を始めたのは、朝鮮戦争のさ 中、一九五〇年のことです。一九五〇年度か ら九〇年度までに、日本の軍事費は約五二兆 円に達します。そしていまや日本は、米ソに つぐ軍事大国グループ、イギリス、フランス、 西ドイツの中でトップであると言われています。

の四一一年間に五二兆円だったのが、これか らの一〇年間で、それを上回る五八兆円にな るわけです。いまここでストップすれば、一 〇年間で四一兆円で済むわけですが、上積み していきますから、その分が一七兆円かかる わけです。

この日本に対して、アメリカの場合、八六 年以來、実質減が続いています。このように、 ほとんどの国が軍事費凍結、削減をしている にもかかわらず、日本はまだ増やそうと しているわけで、それを負担させられるのは 私たちなのです。

兵器を使う「その日」に 備える自衛隊

私のレジメに「出番を前に興奮する自衛隊」と書いてありますが、本当に興奮している。 今とんでもないことを始めようとしています。 レジメの次のページに「陸自隊員の認識票一 線から交付開始」というのがあります。今、 陸上自衛隊の隊員に対して認識票が配布され ているのです。八五年から配布され始めて、 北海道から、順次、自衛隊員はこの認識票を 胸に付けているわけです。ステンレスで出来

を強化することを重視するのです。

アメリカのもう一つの狙いは、自国あるい は西側の海外権益の維持です。チェイニー長 官は、いままでソ連を封じ込めるという側 面を強調してきたが、アメリカが海外派兵し ている狙いには二つあって、一つはソ連の封 じ込めであり、もう一つは地域の安定、言い 替えれば海外権益の維持であると言っています。 この海外権益の維持は、最近、アメリカ の海外展開、日米安保条約において、大変重 みを増してきています。

ですが、これからもなおどんどん増やしていこうとしています。九一年度から新しい防衛力整備計画が始まりますが、この五年間に、約 二三兆円を要するといわれています。これは 今年度の物価水準で二三兆円ですから、実際には二五兆円ぐらいになるに違いありません。 年率にしてだいたい6%ぐらいで増やしてい くことにしようとしています。今四兆一〇〇 〇億円ですから、6%増やして年二五〇〇億 円ぐらい増える計算になります。二五〇〇億円 増えると言っことは大変なこととして、日本

ていますから、一二〇〇度の高温の中でも溶 けないというもので、それには階級差別があ った、一般の兵士は名前も血液型も入ってい ない番号だけのものを付けるわけです。下士 官以上は名前も血液型も入っているものを付 けますから、緊急輸血も可能ですが、兵隊は 死んだときに番号で身元を確認できるだけの 認識票を付けさせられているわけです。

その下に、「潜入射場要図」というのがあ



ります。これは、長さが一〇〇メートルない し二〇〇メートルのところにごうごう仕掛け を作っているわけですね。これが自衛隊の演 習場、まず東富士演習場に出来て、順次主な 演習場に作りつつあります。

これで何をするかというと、まず上のほう に出発壕というのがあって、その後ろに射だ (弾丸を打ち込む堤防)、一番したに到着壕 というのがあります。出発壕から到着壕に向 けて兵士たちが突撃していくわけです。その向 こう側、到着壕の前には銃座があって機関銃 が据え付けられていて、その機関銃から実弾 が発射される。その実弾が飛んでくる下を、 機関銃に向けて突撃していくわけです。

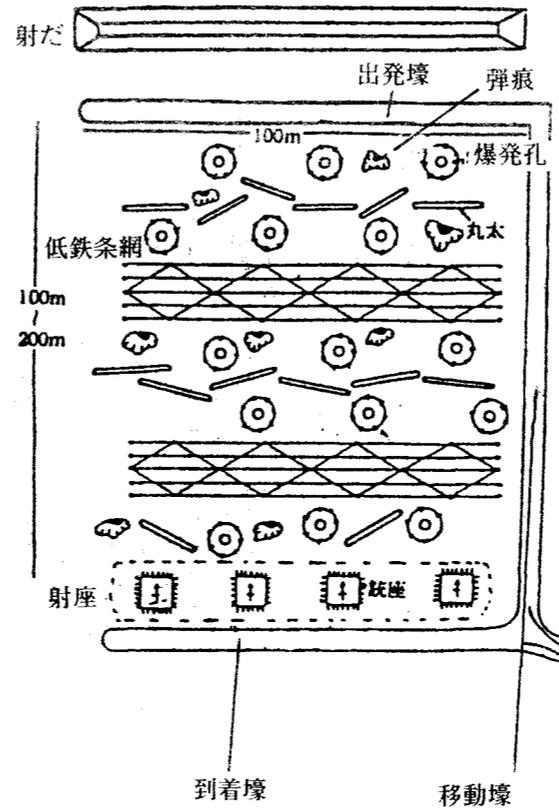
この訓練を始めたのが七八年で、実施規定が六月一日に作られています。つまり、日米防衛協力のためのガイドラインが出来た年に、これが始まったわけです。

兵士たちが突撃して行く途中には、鉄条網が張られていたり、丸太の障害があつて、その上を突撃がビュンビュン飛んでくる。それほどばかりかそこに丸い印がありますが、そこは爆発孔でダイナマイトが仕掛けられていて、それが兵士たちの動きにつれて、爆発します。機関銃の銃弾は一分間に六〇発。爆薬は一カ所に二五五グラムが仕掛けられている。それ

が爆発する間を兵士たちは突撃していくんです。もし、機関銃の弾道が少し下がったら、死んでしまいます。

いったいなせそんなことをするのか。それは戦争を実感するためです。現在の自衛隊には、戦争体験者はいません。その戦争を知らない自衛隊員に、いかにして戦争をする度胸をつけさせるか、そのためにこういうものが作られたわけです。彼らはこれを、「ストレス耐性の向上」と呼んでいます。いざとなつた時逃げ出さないようにするために、徐々にその怖さを実感させていくわけです。

潜入射場要図



その訓練を受けたある三曹が、こういう文章を書いています。

「機関銃の音は激しく鳴り響き、実弾が頭上を絶え間なく飛んでいきました。さらに、私の左右では、爆破薬が大きな爆発音とともに砂を巻き上げ、私の鉄棒にバラバラと砂がかり、まさに戦場の真ただ中という感じがしました。その中を班長の叫ぶ声をたよりに必死に前へ前へと進み夢中で突撃。終わつた時は茫然と立っているだけで、頭の中は空っぽになっていました。少し時間がたつて、初めて『生き延びた』という実感がこみ上げてきました。戦争を体験している人が、全くと言っていいほどいない自衛隊の中で、実弾が飛び交うという、実際の戦争に近い体験をし、大東亜戦争、朝鮮戦争、ベトナム戦争などを想像して……」

大東亜戦争、朝鮮戦争、ベトナム戦争のことを思い描きながら、彼らは訓練を受けているわけです。ほかにもこういう事例がたくさんあつて、軍隊というところが何をやるどころなのか、よくわかります。

こういうことが、いま始まっている。自衛隊が単に沢山の軍事予算を使って、高い兵器を買い揃えているだけでなく、そういう兵器を使う日のくることに備えているわけです。

◆つづく

読者から

世仁下乃一座の「笑うトーキョー・ベイ」は面白い芝居だ

江戸屋 敷(東京・会社員)

劇団「世仁下乃(よにげの)一座」の「笑うトーキョー・ベイ」(作・演出岡安伸治)横浜公演を五月二十六日相鉄本多劇場で見ました。本紙の四月号で紹介されたように、東京湾での核兵器事故を題材に書き下ろされた新作です。

タが、軽妙な会話によって次々と明らかにされます。はじめて聞く人にもわかりやすく、大変興味深いものでした。当然、「なだしお」事件も登場します。そして「政治にはふれずに」、出された報告書のまとめ「提言は「(東京湾の航路については)軍事優先の原則を徹底すべき民意をうながすコンセンサスが必要と思われる」。以前、私もマーケティングをかじった事がある個人的な記憶と結びついて思い出されたのは、「中立」を言いながら、政治的なことはボカしてしまったり、じつはものすごく政治的なことを言っているのだから、こういう稼業の運命みたいなものでした。

劇は四幕構成。二人の役者(里村孝雄・伊藤いサム)が役柄を次々と変えて演じます。第一幕は安保条約第六条の朗読から始まります。東京湾臨海開発計画を請け負っている弱小(?)シンク・タンクが舞台。未来指向、高度思考、客観性をモットーとする彼らが、報告書の中に「決定的な何か一つ」として「毒」を盛り込むことを思いつきます。その「毒」が過密東京湾における核事故。データバンクの端末機から打ち出される、東京湾を軍艦が航行することの危険性を物語るデー

第二幕の舞台は料理屋で、客の酒の「持ち込み」と「核の持ち込み」をひっかけて笑わせます。私は、まずまずと思つたが、友人は

(十六ページ上段へ)

会計報告

(2ヶ月分をまとめて報告します)

(90.4.24~6.20)

[収入]

○前月からの繰越	△144,511
経常繰越	105,489
借入金繰越	△250,000
○今月の収入(2ヶ月分)	135,100
会費収入	100,000
内	
維持団体	0
維持個人	44,000
参加団体	0
参加個人	21,500
通信会員	34,500
カンパ収入	35,000
行動収入	0
資料収入	100
反核ホットライン収入	0
アンケート調査収入	0

[支出]

●今月の支出(2ヶ月分)	191,098
家賃	60,000
水道光熱費	17,674
電話代	29,775
郵送費	48,688
文具代	247
印刷費	28,734
行動費	2,000
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	1,700
郵便振替等手数料	2,280
●次月への繰越	△200,509
経常繰越	49,491
借入金繰越	△250,000

(十五ページから)

最後の第四幕。ここでは本当に核兵器事故が起こり、戒厳令がかけられるのです！ 臨場感が出ていて面白かった。

全体的な感想を言えば、登場する役者二人のセリフのやりとりで、観客に内容が理解できるようになっていたのがよろしかったのでは？ それぞれ見所はありますが、とくにお勧めは第一幕といえるでしょう。同じ内容でも自分で書面で読むと面倒と感じられる情報を、アップ・テンポのセリフでよく理解しやすく表現しているなど感心しました。

読者カードに あなたの声を！



今号から、読者カードのハガキを同封します。紙面への感想、批判、あなたの実のまわりの耳より情報、運動への提案、アピール、誰かに告げたい胸のうち…。

なんでも結構です。編集部にお送りください。紙面で紹介させていただきます。ハガキでは足りないゾ、という方でももちろんOK。二〇〇〇字位までを目途にご投稿ください。



切妻飾り (バブアニューギニア)

◆ご覧のように財政が大変きびくなっております。今月より数回にわけて会員の方に順次会費請求書(支払い状況のお知らせ)を入れさせていただきます。よろしくお願いたします。なお、領収証は郵便振込受領証をもって代えさせていただきますが、特にご入用の場合はその旨通信欄にお書き添え下さい。事務局よりお送りいたします(会計)。

財政ヒッパク！
夏のカンパを
よろしくお願いたします

月刊トマ喰い虫第五五・六合併号

一九九〇年六月二十日発行(通巻五六・七号)

*発行 トマホークの配備を許すな！全国運動
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷一丁五一九
バル青山五〇二 トマ喰い虫社

〇〇三(四九八)六〇九五
〇四四(六三三)九九〇七
FAX〇四四(六三三)九九〇七
郵便振替 東京六一二二六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会
*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)